

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 世田谷区立中里小学校 (※正式名称を記載)

種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>

中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校

教員養成大学  専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例: 小中高一貫 )

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒 154-0024

東京都世田谷区三軒茶屋1-4-1

E-mail dai014@setagaya.ed.jp

Website http://school.setagaya.ed.jp/nato/

幼児児童生徒数 男子 97 名 女子 82 名 合計 179 名

幼児・児童・生徒の年齢 6 歳 ~ 12 歳

## 2. 報告期間

平成 29 年 4 月 ~ 平成 30 年 3 月

※報告書提出時点 ~ 平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度 + 活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

平成 24 年度にユネスコスクールに認定され、ESD の研究を推進してきた。研究主題である「人とのかかわりを大切にし、ともに伸びる児童の育成 ~ 自己有用感を高める活動の工夫 ~」に迫るためには、昨年度に引き続き、児童の身近な課題や地域の様々な人々との関わりを大切にしつつ、外国の言葉や文化、そこに住む人々とふれ合い、かかわり合うことが必要であると考え、1 年間の取組を計画した。具体的には、道徳、特活の二つを柱に「①多文化理解の学習」「②健康の学習」「③福祉の学習」「④環境の学習」この四つに関する学習を行った。

### ① 多文化理解の学習

「多文化理解」に関する学習として、第 5 学年児童がオリンピック・パラリンピック教育「世界ともだちプロジェクト」の学習を実施した。

○「世界ともだちプロジェクト」の 5 カ国 (フランス共和国・モンテネグロ・ホンジュラス共和国・モーリシャス共和国・マレーシア) を調べ、それらの国と日本人の生活や文化の違いと共通点を知り、それぞれの良さについて食育や調べ学習を通して学習した。

## ② 健康の学習

「心と体の元気アップ！！～わくわくクラスタイムとわくわく中里タイム～」

「健康」に関する学習として、「わくわくクラスタイム」「わくわく中里タイム」を実施した。

### ○「わくわくクラスタイム」(毎週火曜日)

クラス全員で活動場所へ移動し、思い切り遊ぶ取組である。中には、動的な遊びを好まない児童もいるが、必ず全員が校庭に出て、太陽光を浴びさせるようにした。

### ○「わくわく中里タイム」(毎週金曜日)

全校児童と一緒に楽しく活動できるゲームや脳神経系を刺激する運動(コーディネーション運動)や有酸素運動などに取り組んだ。

## ③ 福祉の学習

「福祉」に関する学習として、パラリンピアンであり、ブラインドサッカー元日本代表選手を招き、障害について、そして、スポーツやパラリンピックから学んだことの講演をしていただいた。また、児童は実際にアイマスクを着用しブラインドサッカー体験を行った。この活動の成果として、児童は挫折や困難に負けず、どんな時でも希望や目標をもって真摯に自分を高めようとする心情や相手の立場に立ち相手を思いやる心情等を養うことができた。

## ④ 環境の学習

「環境」に関する学習として、たてわり班による地域清掃に取り組んだ。校外班ごとに学校周辺の清掃場所へ移動し、落ち葉や紙屑等のごみ拾いを行った。高学年児童を中心に、全校児童で保護者や地域の方と協力しながら清掃に取り組んだ。

この活動の成果として、児童は学校や地域の一員としての自らの役割について考え、自分たちにできることについて実践していこうとする意識を高めることができたと考えられる。



① 多文化理解の学習  
「世界ともだちプロジェクト」



②健康の学習  
「わくわく中里」



③福祉の学習  
「ブラインドサッカー」



④環境の学習  
「地域清掃」

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項1-2, 2-1に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

<ul style="list-style-type: none"><li>・文部科学省ウェブサイト「ESD 持続可能な開発のための教育」[ユネスコスクールガイドライン]</li><li>・東京都教育委員会「オリンピック・パラリンピック教育実践事例集」(平成29年9月)</li></ul>
---

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

ユネスコスクールとしての活動を学年ごとの「ESDカレンダー」に明記している。「ESDカレンダー」とは、各学年の年間指導計画からESDに関する単元や活動を抜粋したものである。各学年の各教科等において、ESDに関してどのような学習を行うのか、また、その学習と学校行事や特別活動等とどのように関連するのか、児童の発達段階に応じてその学習が系統的に展開されていくのかなど一目見て分かるようにしている。

学校行事や特別活動などこの「ESDカレンダー」に基づいて本校の教育課程が実施されており、「ESDカレンダー」が本校教育活動の核となっている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

6年生を送る会では、6年生に楽しんでもらえるよう各学級で「お店」を出している。その「お店」は学校にある段ボールや図工の時間の余った材料などリユースを基本としている。会終了後にごみが出ないようにするなど環境教育の実践の場ともしている。

6年生を送る会も含めて本校のESDは各学年の「ESDカレンダー」に基づいて実施している。ESDにおいて身に付けさせたい資質の獲得や能力の向上など学校行事や特別活動等それぞれのねらいの中心としている。それにより、たとえ職員が変わっても、学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくっている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

11月に「学校改善プラン」として職員による本校教育活動の自己点検を実施した。設問「人との関わりを意識した教育活動全般を行っている」に対する肯定的回答（「大変よい」と「よい」の合算）は100%であった。

また、12月に「学校関係者評価アンケート」を児童・保護者・地域の方それぞれを対象に実施した。高学年児童に対して実施した設問「上級生として下級生のことを考えて行動できたと思う」に対する肯定的回答は約78%であった。

本アンケートの分析・考察を通して、改善を図り、本校児童が「人との関わりが楽しい」と感じられるような教育活動を実践していく。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

6年生を送る会では、各学級で段ボールや図工の余った材料などリユースして「お店」を出し、6年生と一緒に活動した。活動後にごみが出ないように工夫した。そのような活動をホームページや学校便り・学年便りで保護者・地域に発信した。そのことで、保護者や地域から「ESDカレンダー」に基づく本校教育活動に理解を得ることができた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)  
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

本校は小規模校のため、学校周辺の地域に住む様々な人との関わりを大切にしている。  
「中里防災の日」ではPTAをはじめ、おやじの会や町会、まちづくりセンター、児童館、消防署、近隣の大学等と連携協力して防災教育を実施した。  
「中里スクールアーツフェスタ」では、近隣の保育園児の作品を展示したり、保育園児が本校で劇の発表を行ったりして交流している。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

「ユネスコスクール みんなの掲示板」がメールで本校に送られてくる。他校のユネスコスクールの活動やESDに関する研修会などメールの情報を、管理職を含む職員で共有している。  
また、世田谷区内のユネスコスクールの中学校(駒沢中学校・喜多見中学校)と情報交換をして、互いの実践内容を共有している。

- ⑧ ユネスコス쿨の活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項 2-5 に対応

特に2点挙げられる。1点目は「ESDカレンダー」による学習の関連性・系統性の明確化である。ESDを核として各学年の年間指導計画、「ESDカレンダー」を作成したことにより、各教科と学校行事・特別活動等の関連性や各学年の系統性が明確となった。2点目は地域との協働である。⑥で挙げた以外に、消防署と連携した運動会、近隣の大学職員による「陸上教室」、近隣の大学生による特別な支援を要する児童に対する支援やボランティア、近隣の幼稚園児・保育園児及びその保護者を対象に授業公開や授業参加を行う「オープンスクール」、PTAと一緒に実施する地域清掃など地域との協働も本校教育活動の柱の一つとなっている。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

平成29年度「ESDカレンダー」を見直し、全職員共通理解の下、平成30年度「ESDカレンダー」を作成する。

「人との関わり」や「地域との協働」を柱とした「ESDカレンダー」を基に次の①～⑧を中心にESDを実践していく。

- ①各学年における環境教育 4年清掃工場、最終ごみ処分場見学等
- ②7・12月「中里オープンスクール」近隣の幼稚園・保育園児対象
- ③9月「中里防災の日」近隣の大学、地域の諸団体等との連携
- ④9月「水辺のガサガサ」「草地のガサガサ」多摩川の自然にふれる
- ⑤9月「陸上教室」近隣の大学との連携
- ⑥11月「中里スクールアーツフェスタ」近隣の保育園との連携
- ⑦1月 農業体験(3年生)食への関心を高める
- ⑧2月 6年生を送る会 不要品のリユース